

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	京都府
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	亀岡市立南つつじヶ丘小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	3	3	3	3	3	21	29
児童数	87	90	103	107	102	118	5	612	

研究の概要

1. 研究主題

確かな学力と豊かな感性をもち、生き生きと伝え合う児童の育成
-------------------------------

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

<ul style="list-style-type: none"> <li>・全学年・国語</li> <li>児童の学力の問題と心の問題に真正面から向き合い、本校児童の大きな課題である伝え合う力を育てる上で最も効果的な教科であると捉えている。</li> </ul>
---

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 確かな学力と豊かな感性をもち、生き生きと伝え合う児童の育成</p> <p>研究の見通し</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・正確に読む・書く・話し合う活動を充実することにより、考える力を高め、「確かな学力」につなげることができるのではないか。</li> <li>・言葉にこだわった豊かな読み取りや、相手や場を意識した表現活動を充実することにより、「豊かな感性」を育むことができるのではないか。</li> <li>・「確かな学力」と「豊かな感性」を基盤とすることで、意欲的に自分を表現し、相手を理解できる児童を育てることができるのではないか。</li> <li>・少人数授業や習熟度別授業を有効に実施することにより、個に応じた指導を一層きめ細かく取り組むことができ、児童の学習意欲を高め、学力向上につなげることができるのではないか。</li> </ul> <p>研究の内容・方法</p> <p>ア 各学年研究授業を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>5月 障害児学級 生活単元学習「しぜんとなかよし」</li> <li>6月 4年(少人数授業) 国語科「ツバメがすむ町」</li> <li>10月 2年 国語科「うごくおもちゃを作る」</li> <li>5年 国語科「一秒が一年をこわす」</li> <li>11月 6年(少人数習熟度別授業)</li> <li>国語科「言葉と文化について考えよう」</li> <li>3年 国語科「動物とくらす」</li> <li>1月 1年 国語科「動物の赤ちゃん」</li> </ul> <p>イ 公開授業研究会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>4月 学習指導カウンセラーによる説明的文章の模範授業</li> <li>5年国語「海にねむる未来」(管内小・中学校からも参加)</li> <li>1月 京都夢・未来教育局別実践研究会</li> <li>全学級研究授業(4・6年は少人数習熟度別授業)</li> </ul>
--------	--

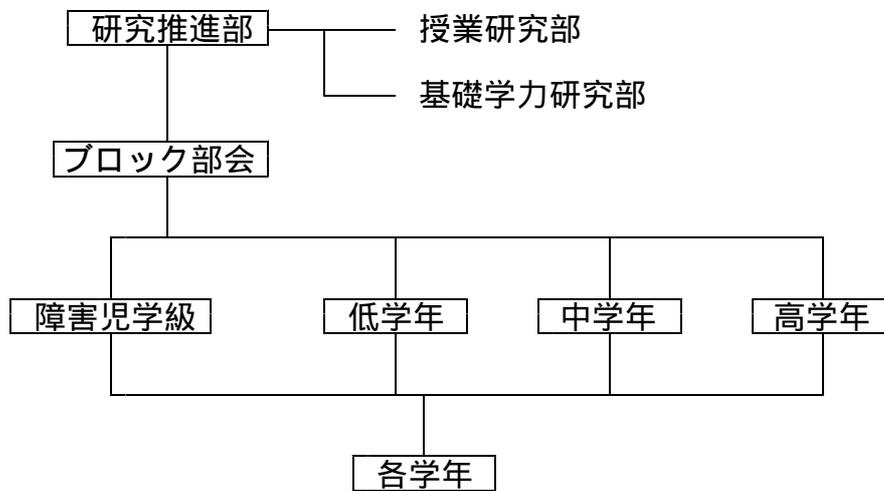
	<p>研究発表</p> <p>ウ 全体研修会</p> <p>4月 講演「説明的文章をどのように指導するか」</p> <p>7月 実践報告「少人数授業の成果と課題」(授業研究部)</p> <p>「基礎学力向上の取組」(基礎学力研究部)</p> <p>講義「少人数授業・習熟度別授業に関わって」</p> <p>8月 実践報告「1学期説明的文章の指導の実際」(各学年)</p> <p>講演「言語活用能力、伝え合う力を育てるために」</p> <p>2月 第1年目研究の総括</p> <p>エ ブロック別研究会</p> <p>4月 ブロック別テーマ・研修内容の決定、教材研究</p> <p>5～6月 教材研究</p> <p>7月 学習指導カウンセラーによるブロック別研究会</p> <p>(説明的文章・習熟度別授業)</p> <p>10月 学習指導カウンセラーによるブロック別授業研究会</p> <p>11月 ブロック別授業研究会</p> <p>2月 ブロック別研究の総括</p> <p>オ 研究推進委員会</p> <p>月2～3回実施</p> <p>研究計画・研究方法・研究内容等の立案、協議</p> <p>「研究だより」の発行</p> <p>国語科学習についての、児童の意識調査</p> <p>研究紀要の作成</p>
--	---

平成16年度	<p>テーマ</p> <p>確かな学力と豊かな感性をもち、生き生きと伝え合う児童の育成</p> <p>研究の見通し</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個に応じた指導の充実を図り、評価を指導に生かす実践を進めることにより、一層児童に「確かな学力」を身に付けさせることになるのではないか</li> <li>・前年度に引き続き、言葉にこだわった豊かな読み取りや、相手や場を意識した表現活動を一層充実することにより、「豊かな感性」を育むことができるのではないか。</li> <li>・指導形態を固定的に捉えず、学習内容や児童の実態等に応じて、少人数授業や習熟度別授業等、様々な形態を探求することにより、一層効果的な授業を展開することができるのではないか。</li> </ul> <p>研究の内容・方法</p> <p>ア 各ブロックで研究授業を実施(予定)</p> <p>5月 障害児学級・低学年</p> <p>6月 中学年(少人数習熟度別授業)</p> <p>10月 高学年(少人数習熟度別授業)</p> <p>イ 公開授業研究会</p> <p>10月下旬 学力向上フロンティア事業、京都夢・未来校</p> <p>「国語科研究発表会」</p> <p>4・6年は少人数習熟度別授業</p> <p>児童発表・研究発表</p> <p>ウ 全体研修会</p> <p>4月 講演「説明的文章の指導と評価」</p> <p>7月 実践報告「習熟度別授業の成果と課題」(授業研究部)</p> <p>「基礎学力向上の取組」(基礎学力研究部)</p> <p>講義「習熟度別授業の展開と評価」</p> <p>8月 実践報告「1学期説明的文章の指導の実際」(各学年)</p> <p>11月 研究発表会の総括</p> <p>2月 研究総括</p> <p>エ ブロック別研究会</p>
--------	---

- 4月 ブロック別テーマ・研究内容の決定、教材研究
  - 5～6月 習熟度別授業研究
  - 7月 学習指導カウンセラーによるブロック別研究会
  - 2月 ブロック別研究の総括
- オ 研究推進委員会  
 月2～3回実施  
 研究計画・研究方法・研究内容等の立案、協議  
 「研究だより」の発行  
 国語科学習についての、児童の意識調査  
 研究紀要の作成

(3) 研究推進体制

ア 実践研究組織図



イ 研究推進体制の工夫

- ・研究推進部は、管理職・教務・研究主任・少人数加配・各ブロック長で組織し、実践研究が校長主導の下、計画的・機能的に推進されるようにする。
- ・研究推進部を授業研究部と基礎学力研究部に分けて実践研究を深める。授業研究部では、個に応じた指導方法の研究・年間指導計画や評価規準の検討・作成等を行う。基礎学力研究部では、国語科の基礎学力を向上させるために、言語環境の整備・基礎学力診断テストの分析と活用・朝学習（読書タイム・ドリル学習等）の充実等を推進する。
- ・ブロック別研究部（障・低・中・高学年）を設定し、各ブロックごとのテーマに沿って、児童の発達段階に即した授業を展開する。
- ・学習指導カウンセラーを積極的に招聘し、実践研究を一層充実させ、児童が学力が一層向上するよう、適切な指導・助言をいただく。

## 平成15年度の研究成果及び今後の課題

### 1. 研究成果

読む活動の中で伝え合う力を育てていくために、講師を招聘して教材分析の視点や授業展開の方法を学び、児童に視点を当てた教材の研究を深めることができた。

評価規準や評価方法、発展的な指導や補充的な指導を単元計画の中に位置付けることにより、単元に見通しを持つことができたとともに、指導方法や教材の開発等を通して、一人一人の学習を伸ばすための支援に意識して取り組むことができた。

多様な表現活動を設定し、同学年だけでなく他学年の学びに触れる機会を設定したことにより、児童に国語への関心を高めることができた。

教師の意図的な働きかけにより、発表時の話し方や声の大きさ等について意識して取り組む児童の姿が見られるようになった。

### 2. 今後の課題

個に応じた指導の在り方（学習形態・方法・評価等）を全教員が協働して推進していく。指導形態については固定的に考えず、個を伸ばすことに視点を置いて様々な形態を探求していく。

個に応じた指導の充実を図るために、評価を指導に生かす取組を更に進めていく。

指導者によって指導力や指導方法、児童理解に差が出ないように、事前の教材研究等に十分な時間が必要である。加配教員の役割が大きい。

国語科で付けた力が生きて働くように、他教科や総合的な学習の時間と関連付け、重点化・系統化させながら取組を進めていくことが大切である。

### 学力等把握のための学校としての取組

府基礎学力診断テスト（4・6年）

CRT学力診断テスト（2・3・5年） 4月中旬実施

児童の国語・算数における基礎学力を診断し、今後の学習指導や授業改善に生かす。

学期末国語テスト・算数テスト（全学年）各学期末に実施

基礎学力の定着と達成度を調査し、合格ラインに達しない児童には補充指導を実施する。さらにその後、再テストを実施し、完答を目指させる。

国語科学習アンケート調査（全学年児童対象）各学期末に実施

国語科における児童の関心・意欲の変容を調査し、指導内容や方法の改善に生かす。また、研究実践の評価や方向性についての参考資料とする。

## フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ア 公開校内研究会  
平成15年4月23日(水) 10:40~11:25 14:45~16:15  
公開模範授業(10:40~11:25 5年2組教室)  
全体会(14:45~16:15)  
講演「説明的文章をどのように指導するか」  
講師 大阪大学名誉教授 中西 一弘 先生  
対象：本校教職員・管内教職員  
目的：説明的文章の指導の在り方について、「開かれた研究」を目指し、他校の教職員とともに研究実践を深める。
- イ 南丹地区学力向上推進協議会  
平成16年1月20日(火) 9:00~16:30  
全体会(9:00~9:30)  
研究授業(9:35~10:20 全学級授業公開、4・6年習熟度別授業)  
(移動後、詳徳中学校・丹波ひかり小学校で研究授業)  
研究発表・全体会(14:35~16:30)  
本校の実践を研究主任が発表  
対象：管内小・中学校研究主任等  
目的：学力向上フロンティアスクールにおける実践研究の成果を普及し、管内各学校における個に応じたきめ細かな指導の一層の充実、学習指導要領の趣旨に基づく学校教育の推進に資する。小・中学校の研究主任等が、研究授業、研究発表を通して授業改善の方途や学校活性化に向けた研究推進の充実に役立てる。
- ウ 学校公開  
平成15年11月8日(土) 8:50~12:00  
本校全学級の国語科授業を公開し、研究内容を発表  
全学年の児童学習発表により、特に表現力の成果を公開  
研究内容や児童作品を掲示  
対象：保護者・地域住民  
目的：本校の研究実践について、保護者・地域住民に普及し、学校教育への一層の理解と協力を求める。
- エ 学力向上フロンティア事業、京都夢・未来校「国語科研究発表会」  
平成16年10月下旬(予定)  
研究授業・児童発表・研究発表・講演会・指導主事講評等  
対象：全国小・中学校教職員  
目的：学力向上フロンティア事業・京都夢見来校としての2年間の研究実践の成果を発表し、国語科における説明的文章の授業実践や習熟度別授業の在り方について研究を深める。また、今後の課題について参加者の批評を得る。
- オ 広報活動  
学校だより「南陵」(月1回)・研究だより(学期1回)・少人数授業だより(学期1回)・学年だより(月1回)等による広報  
本校ホームページの活用.....研究会案内・各学年の実践等を広報

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】       15年度からの新規校       14年度からの継続校
- 【学校規模】               6学級以下                       7～12学級  
                                  13～18学級                       19～24学級  
                                  25学級以上
- 【指導体制】               少人数指導                       T・Tによる指導  
                                  一部教科担任制                       その他
- 【研究教科】               国語                       社会                       算数                       理科  
                                  生活                       音楽                       図画工作                       家庭  
                                  体育                       その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】       有       無